

視察項目 熊本地震の概要と熊本城再建の取組

視察者 福田武彦、根岸成直

説明員 熊本城調査研究センター副所長 網田 龍生氏
議会事務局 課長補佐 本田 昌平氏
議会事務局 濱崎 尚章氏

視察目的

2011年3月11日の東日本大震災、2016年熊本地震と、どこで起きるか
もしれない大地震。東松山市でも災害への備えは、より一層の重要性を増して
いる。

今回は東松山市の文化財に目を向け、文化財建造物等の地震における安全性
確保の点から調査を実施した。

熊本地震の概況

1. 前震

平成28年4月14日 21時26分

震源地 熊本県熊本地方

規模 マグニチュード6.5(最大震度7 益城町)

2. 本震

平成28年4月16日 1時25分

震源地 熊本県熊本地方

規模 マグニチュード7.3(最大震度7 益城町、西原村)

3. 地震発生回数(平成29年3月31日現在)

震度1から震度7 4,284回

4. 熊本地震における熊本城の被災状況

重要文化財建造物 13棟

復元建造物 20棟

石垣(崩落、膨らみ、緩み) 517面

地盤(陥没・地割れ) 70箇所

便益施設・管理施設 26棟

熊本市概況

- 市の面積は 390.32 平方キロメートル
- 人口は平成 30 年 4 月 1 日現在 738,407 人
- 平成 30 年度当初予算
 - 一般会計 3,653 億円
 - 特別会計 2,064 億 283 万 5 千円
 - 企業会計 835 億 5,362 万 3 千円
 - 合計 6,552 億 5,645 万 8 千円

議員数 条例定数 48 人 現員数 47 人

座学による説明

1. 計画策定

平成 28 年熊本地震により、熊本城は全域的に甚大な被害をうけた。その復旧には、国県等の関係機関との連携はもとより、市民・県民、熊本城復旧を願う多くの人々の力を結集して取り組む必要がある。

「熊本城復旧基本計画」は、平成 28 年 12 月に策定した熊本城復旧の基本方針に基づき、石垣・建造物等をはじめ熊本城全体の復旧手順や復旧過程の公開など、復旧に係る具体的な方針、施策及び取組を体系的に定め、熊本城の効率的・計画的復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくために策定された。

2. 計画の対象区域

対象区域は、特別史跡区域 51.2ha 及び都市計画区域 55.7ha

3. 計画の期間

復旧計画の期間は 20 年と設定

4. 復旧方針

基本方針

熊本城の復旧では、文化財的価値の保全や都市公園と調和した重要な観光資源としての早期再生、将来の災害に備える安全対策等に加え、震災の記憶を次世代に繋げていく長期的な視点を持ち、効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を進めていくことが重要である。

また、石垣と建造物の復旧にあたっては、被災原因の究明、石垣と建造物の関係性の検証と安全な状態で復旧するための工法の検討等の調査・研究を先行して進めることが不可欠であり、このような考えに基づき、7つの基本方

針を定め、それぞれの方針に基づく施策と具体的な取組を進める。

- ① 被災した石垣・建造物等の保全
- ② 復興のシンボル天守閣の早期復旧
- ③ 石垣・建造物等の文化的価値保全と計画的復旧
- ④ 復旧過程の段階的公開と活用
- ⑤ 最新技術も活用した安全対策の検討
- ⑥ 100年先をも見据えた復元への礎づくり
- ⑦ 基本計画の策定・推進

5. 石垣・建造物等の復旧方針

「地震直前の状態」に復旧することを原則、基本とする。ただし、耐震化など安全対策が必要な場合は、「地震直前の状態」に復旧しないこともある。

6. 石垣・建造物等の復旧の着手優先度

天守閣の復旧を再優先とし、重要文化財建造物を優先的に復旧する。早期公開を目指すエリアの主要復元建造物についても優先的に復旧に着手し、石垣は建造物等の基礎及び一体的な復旧を要するものを優先する。

7. 復旧手順及び期間

全体を5エリア、竹の丸・飯田丸・天守閣・本丸北・その他、72工区に区分し、それぞれの工区の工事着手年度と復旧年度を算定した結果、復旧期間を20年と算定した。

8. 施策と具体的な取組として、復興のシンボル「天守閣」の早期復旧

○市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧(短期)

2019年秋頃の大天守の外観復旧、2021年春頃の天守閣全体の復旧完了を目指す。

○耐震化等による天守閣の安全性の向上(短期)

ブレースや摩擦ダンパー、制振装置の採用など最新技術による耐震補強に取り組む。

○天守閣のバリアフリー化及び展示・内装内容の刷新(短期)

スロープやエレベーター設置をはじめ、二段手摺りや色調への配慮による転倒防止対策も講じる。

(元氣な姿少しずつ・・・H30.8.30 朝日新聞に掲載)

熊本城の被害状況や復旧過程を観覧できる見学通路からの説明

別添資料 熊本城 ～復興に向けて～

平成 30 年 春夏号

を基に具体的な被害状況や復旧過程の説明を受けた。

見学は熊本市役所をスタートとした。

ルート④地点より、東十八間櫓・北十八間櫓の国指定重要文化財がある。北東の隅にある 20m にもなる壮麗な場内屈指の高石垣の上に建つ櫓として知られているが石垣とともに崩落している。

所感

加藤清正公が約 400 年前に 7 年の歳月をかけ築城した熊本城は、西南戦争直前の火災により天守と多くの櫓群は焼失したものの、難攻不落堅牢な造りを天下に知らしめた。

しかし、平成 28 年 4 月熊本地方を震源とする最大震度 7 の激震を二度受けた熊本城は、石垣は全体の約 1 割が崩落し、約 3 割が修復する必要があるといわれる。

また、北十八間櫓と東十八間櫓は石垣ごと崩れ、国指定重要文化財建造物 13 棟、再建・復元建造物 20 棟のすべてが被災している。改めて地震の怖さを痛感した矢先の 9 月 6 日未明に北海道胆振地方を震源とする最大震度 7 の地震が発生し、大きな被害が出た。

いつ起きるかもしれない地震に対して、でき得る限りの対策が必要であるとの思いを強くした視察であった。